

H302: 飲み込むと有害
H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H412: 長期継続的影響によって水生生物に有害

● 注意書き

【安全対策】

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P264 取扱後は 手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P301+P312 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
P333+P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
P321 特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。
P363: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
P501 内容物/容器を条令、法令、国際規制に従い、内容物と容器を破棄すること

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	工業純品
化学名又は一般名	クマリン、Tonka bean camphor
慣用名・別名	ベンゾ- α -ピロン、acid lactone, Coumarin, Coumarinic anhydride,
化学物質を特定できる一般的な番号	
CAS番号	91-64-5
成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)	100%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	5-688
GHS分類に寄与する成分	
REACH登録番号	01-2119949300-45-0002

▲ 項目4 応急処置

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11-有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護

医師に対する特別な注意事項 重大な危険反応は予知していない。

毒劇物の場合、解毒剤

項目5 火災時の措置

職場のあんぜんサイトから引用

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	データ無し

火災時の措置に関する
特有の危険有害性 加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
凶災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
保護手袋
安全グラス
保護具
熱や火災にさらされている場合、呼吸機器を身に着けること。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 吸引、皮膚接触、眼接触を避けること。
項目7の保護具を参照すること。

汚染場所から離れる事。関係のない人を避難させること。換気をする事。
項目8を参照ください。

環境に対する注意事項 環境に放出しないこと。
下水、地下水、土壌、に放出しないこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 熱、火花、裸火を物質表面に近づけない。
充分な換気を行う事。
上記の吸引をさけること。
漏出物を砂や不活性物質で取り除くこと。
法令に従い廃棄を行うこと。

二次災害の防止策

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意 取扱い

技術的対策 (局所排気、全体換気) 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、
保護具を着用する。
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項 裸火、熱に近づけないこと。
禁煙、個人用の保護具を着用すること。
産業衛生を遵守すること。
充分な換気の場所で取り扱うこと。

接触回避 「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策 取扱い場所では取扱い前後に手を洗う。

保管

安全な保管条件 換気の良い、涼しく乾燥した場所で密閉保管をすること。
アース接地を行うこと。
設備(防爆、換気、耐電)の場所で保管すること。

近づけてはいけないもの

安全な保管保管包装材料 元の容器

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版) 未設定
ACGIH(2005年) 未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

換気の場所で蒸気を防ぐのであれば、通常使用と条件では特別な設備は必要としない。

保護具

呼吸用保護具

ガス蒸気の濃度が高い際、ガスマスクを着用する事。

手の保護具

手の保護具

眼の保護具

面の保護具

皮膚及び身体の保護具

防護服

特別な注意事項

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状態

粉体、結晶個体

色

無色

臭い

フローラル臭

融点・凝固点

68°C

沸点又は初留点及び沸騰範囲

287°C

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

データ無し

引火点

93°C

自然発火点

データ無し

分解温度

データ無し

pH

6.30~7.30

動粘性率

データ無し

溶解度

0.17 g/100ml

n-オクタノール/水分配係数(Log値)

データ無し

蒸気圧

1.3 hPA(106°C)

密度及び/又は相対密度

0.8200 g/cm3 @20°C

相対ガス密度

データ無し

粒子特性

その他のデータ

● 項目10 安定性及び反応性

反応性

通常は安定。

化学的安定性

過酸化物が発生するおそれがある。

危険有害反応可能性

強酸に強い発熱反応があり、爆発の危険性が上昇する。

避けるべき条件

(静電放電、衝撃、振動など)

裸火、熱に近づけない事。

引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。

粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。

混触危険物質

可燃物、酸化剤、強酸、金属、水、湿気、アルミニウム、鉄

危険有害な分解生成物
その他

燃えた場合、一酸化炭素と二酸化炭素を発生させる。
一酸化炭素を含む有毒ガス

★ 項目11 有害情報
急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
経口	LD50		500 mg/kg bw				

皮膚腐食性/皮膚刺激性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	時点	被検体	値の決定
	データなし					

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
刺激あり

呼吸器感作性又は皮膚感作性
皮膚感作は亜急性区分1B

生殖細胞変異原性

結果	方法	曝露時間	試験基板	雌雄	影響	値の決定
データ無し						

発がん性
データ無し

生殖毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体雌雄	効果	臓器	値の決定
データ無し								

特定標的臓器毒性、単回曝露

曝露経路	基準	方法	値	臓器	効果	曝露時間	被検体 雌雄	値の決定
データ無し								

特定標的臓器毒性、反復曝露
特定標的臓器に繰り返し暴露することで損傷を与えるおそれがある。

誤嚥有害性
その他

項目12 環境毒性情報

生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性 魚	LC50 NOEC		データ無し	96h	魚			
急性毒性 無脊椎動物 魚に対する	EC50		30.6 mg/l	46h	大ミジンコ			
慢性毒性 無脊椎動物	NOEC				甲殻類			
長期毒性 藻、	NOEC		データ無し		藻			
水生微生物 に対する毒	EC50							
	IC50							

残留性・分解性

方法	値	期間	値の決定

容易に分解する

生態蓄積性

基準	方法	値	期間	被検体	値の決定
----	----	---	----	-----	------

データ無し

土壤中の移動性

基準	方法	値	値の決定
----	----	---	------

データ無し

オゾン層への有害性

データ無し

他の有害影響

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

項目14 輸送上の注意

国際規制

国連番号 非該当
品名(国連輸送名) 非該当

国連分類

(輸送における危険有害性クラス) 非該当

容器等級

海洋汚染物質 非該当
(該当・非該当)

MARPOL73/78附属書Ⅱ及び

IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 非該当
(該当・非該当)

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

国内規制がある場合の規制情報

その他

応急措置指針番号 非該当

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化管法	非該当
安衛法	通知・表示対象物質 非該当
消防法	非該当
化審法	既存化学物質
外為法	キャッチオール規制

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
職場のあんぜんサイト
2016年版 16716の化学商品

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実取扱いを対象としたものです。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)